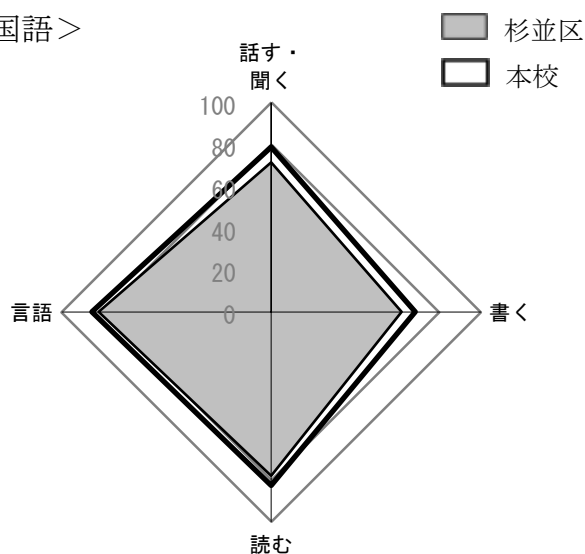


杉並区学力調査の結果と今後の取り組みについて

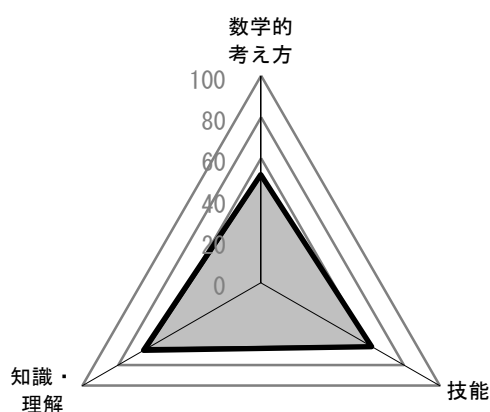
今年も5月10日（火）に、杉並区内の小学校3年生以上を対象に、学力調査を行いました。杉並区では学力を「学んだ力」（知識・理解）、「学ぶ力」（思考力・判断力・表現力）にとらえ、そのうち「学んだ力」と「学ぶ力」について、児童・生徒にどの程度身につけているかを検証するために行っています。具体的には、国語、算数、意識・実態調査を各1単位時間ずつ行いました。今年度の結果が出ましたので、お知らせいたします。

| | 杉並区平均 | 杉八小平均 |
|----|-------|-------|
| 国語 | 78, 5 | 83, 0 |
| 算数 | 62, 0 | 63, 1 |

<国語>



<算数>



上記の結果から、学年によって多少の差はあるものの、国語は区の平均を大きく上回り、算数も杉並区の平均とほぼ同じだったことが分かります。教科ごとに、結果と今後の取り組みについてお知らせいたします。

<国語>

学年によって多少の差はあるものの、区の平均と比べ、基礎力、応用力共に平均を上回っています。昨年度の結果と比べると、今年度はどの観点においても杉並区の平均を上回り、好ましい結果となりました。

◎話す・聞く

「話す・聞く」の問題は、音声言語の聞き取りの問題です。杉並区全体の傾向として、聞き取ることはできても、聞き取った内容をまとめたり、それについての自分の考えを書いたりすることができない児童が多いようです。一方、本校の傾向を見てみると、この領域についてはすべての学年で区の平均を上回っています。

昨年度より、校内研究においても「コミュニケーション能力の豊かな子どもを育てる」というテーマに取り組み、研究授業をはじめ日々の授業でも話し合いの充実を目指してきました。具体的には、話し合いにおけるハンドサインの定着を図ること、2人組で行う対話を取り入れることを学校全体として取り組んできました。こうした積み重ねが、杉並区の平均を大きく上回る結果に結びついたのだといえます。ご家庭でも、お子さんと話す時間を大切に、1日に1回はしっかり目を見てきちんと話し合う時間をもっていたいただけたらと思います。

◎書くことと読むこと

書くことについては、昨年度に引き続き、杉並区全体では低い結果となっており、区としての大きな課題となっています。しかしながら、本校では、この項目についても大きく区の平均を上回っています。それは、読み取る力と書く力を連動させて力をつけるということを学校全体として取り組んできたことの結果です。

今後も引き続き、重要語句にサイドラインを引いたり、段落と段落の関係を考えながら読んだり、毎回の授業の中で自分の考え等を書く時間を必ず設けたりしながらこの力を付けていきたいと思っています。

一方で、本校児童の読書量が少ないことが気になります。本校に司書の先生が入られてからは図書室利用の児童が増えてきています。とはいえ、今はまさに読書の秋。ご家庭でも親子同じ本を手に取り、感想を語り合う時間をもつなど工夫していただき、一層読書量が増えるようにご協力いただきたいと思います。

◎言語事項

言語事項も、杉並区の平均を上回った結果となりました。言語事項は漢字学習のみをさすものではないので、今後も引き続き、漢字学習はもちろん、普段から語彙を増やすことができるような活動を取り入れていこうと考えています。

語彙を増やすことは児童の生活あらゆる場面で培われていくものです。本校では今年度、杉並区の「言葉の教育推進指定校」になっています。もうお気付きの方も多いかと思いますが、校舎内の詩や短歌、俳句などを掲示し、美しい日本語に触れる機会を多く取り入れています。

しかし、言語環境の基本は家庭ですから、常に文末までしっかり話をさせる、改まった場面ではきちんとした言葉遣いをさせるということを心がけていただきたいと思います。また、お子さんの前で敬語を使う場面を見せるなど、言葉の力が一層伸びるようご協力をお願いいたします。

〈算数〉

学年により、多少の差はあるものの、基礎力・応用力共にほぼ平均値と同程度の結果となりました。

◎数学的な考え方

算数では、1年生で習ったたし算やひき算が、2年生では桁がふえ、学年が上がると数が小数や分数になっていきます。このように前の学年で習った考えが新しい場面でも使えることが大切です。

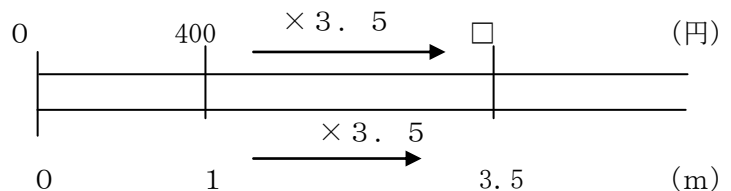
今回の学力調査では、本校の傾向をみると、この領域においては、昨年よりも伸びてきているもののほぼ区の平均です。

数学的な考え方を問う問題に、たくさんの文章問題が並んでいて、何算になるのかを問うものがあります。よく文章問題が苦手な・・・という声が聞こえてきます。どれがわり算で、どれがかけ算の問題なのかが分かるためには、問題場面や数値の関係をはっきりとつかむことが大切です。

本校では、授業の中で、問題場面、数値の関係をイメージできるように、絵や図、数直線などに表すことを指導しています。問題を絵や図、数直線に表し、目で見えて分かるようにすれば、式が見えてくるからです。また、実際におはじきやお金で操作しながら分けてみると、よりはっきりと式や答えが見え、納得して問題に取り組むことができます。それを繰り返していくと実際に操作しなくても、図にかいて分かるようになっていきます。お家で問題に取り組んでいるとき、分からない時には、おはじきを動かしたり、図や絵、数直線にかいたりしてごらんという声かけをお願いします。

1mが400円のリボンがあります。
3.8m買うと何mになりますか。

$$400 \times 3.5 = 1400 \quad (1400 \text{ 円})$$



◎技能

技能は、ほぼ平均値ですが、少し下回っている学年も見られます。より力をつけるためには、反復練習が必要です。できるようになるまで繰り返し練習することで定着し、自信がつきます。また、習った

直後はできていても、学んだことを積極的に使う場面がないと忘れてしまいます。そこで、学校では、このような取り組みを行っています。

○朝自習での反復練習（D Sを使った計算練習、計算ドリルでの繰り返し練習）

○まちがい直しを徹底し、どこでつまづいているのかが自分で分かるようにする。

○取り組み方の工夫（時間を計る、目標タイムや目標点数の設定）

○家庭学習による定着（学校で習ったことを反復、定期的に計算問題を出し反復練習）

ご家庭でも、買い物の時のおつりや代金のだいたいの値段（概数）を求めるなど生活の中で積極的に子供たちに計算してもらおう場面を作っていたら、力がつくと思います。また、宿題の際に目標時間を話し合い、時間を計って取り組むと目標ができ、能率も上がります。

◎知識・理解の力

知識・理解の力も、ほぼ区の平均です。より力をつけるためには、算数で学んだ単位や言語を積極的に使っていくことが大切です。学校では、算数で学んだ言語や名称を使って、友達に説明する対話の活動を取り入れ、定着をはかっています。お家では、例えば、買い物の際、お肉を買う時に、300gがどれぐらいの重さなのか持ってみることで、子供たちは、実体験とリンクした知識が身につきます。また、料理の際に使うccやmlなどお子さんと一緒に確認することで量感は自然に身につきます。